

都道府県名	徳島県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	鷲敷中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	2	1	0	4	11
生徒数	33	43	29	0	105	

研究の概要

1. 研究主題

「生きる力」をはぐくむ教育活動の創造  
～基礎的・基本的な学力の定着をめざして～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

(少人数指導)  
1年生：社会，理科，英語，音楽，美術，技術・家庭（生徒数が多いため）  
3年生：社会，数学，英語，音楽，美術，技術・家庭（生徒数が多いため）  
(TT指導)  
1年生：国語，英語，技術（理解度に差が出やすい，危険をとまなう教科であるため）  
2年生：数学（理解度に差が出やすい教科であるため）  
3年生：国語，数学，理科（理解度に差が出やすい，危険をとまなう教科であるため）  
(習熟度別指導)  
1年生：数学（理解度に差が出やすい教科であるため）

(2) 年次ごとの計画

平成15年度

テーマ  
「生きる力」をはぐくむ教育活動の創造  
～基礎的・基本的な学力の定着をめざして～

仮説  
(1)少人数指導，TT指導及び習熟度別指導によって個々の生徒に応じたきめ細かな指導をすることによって，各教科の基礎・基本を確実に定着させることができると考える。  
(2)朝の自習時間に読書をすることで，読解力や創造力，集中力を高めることができ，また，5教科のセミナーによってドリル学習を行い，授業で学習した基本的事項の定着がはかれると考える。

研究の内容・方法  
(少人数指導)  
一人ひとりの興味・関心に応じて学習内容や形態を工夫し，生徒それぞれの個性を伸ばすきめ細かな指導を展開していく。  
(TT指導)  
つまずきやすい教科や危険をとまなう教科で実施し，生徒の質問に答えたり支援する中で個別指導に当たる。  
(習熟度別指導)  
1年生の数学科で2学期より実施している。「基礎コース」と「発展コース」の生徒の希望選択により編成しており，「基礎コース」はTT（1名は那賀高校の教師）であたり，理解の遅い生徒を支援できるようにする。  
(朝の自習時間の活用)  
毎月1週間は読書週間として読書に親しむようにさせる。残りの日はセミナー学習を実施する。  
(小テストの実施)

漢字テスト，計算テスト，英単語テストを2週間ごとに順番に行う。範囲を絞って予告しておき，基本的な内容について出題する。テストの事後指導では，確実に定着できるように再テストをしたり個人指導を行う。  
 (長期休業中の質問教室)  
 家庭学習の困難な生徒，学習が遅れがちな生徒，質問を希望している生徒を対象に学習の場を提供する。担任や教科担任等の複数の教師で対応する。

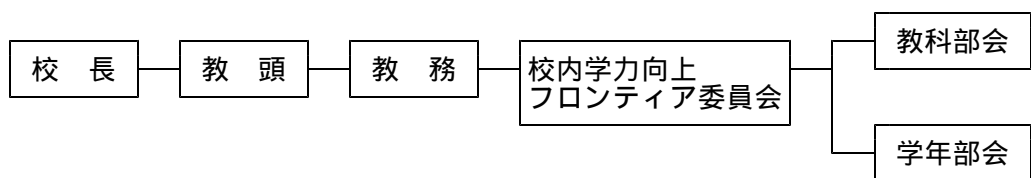
平成16年度

テーマ  
 「生きる力」をはぐくむ教育活動の創造  
 ～基礎的・基本的な学力の定着をめざして～

仮説  
 (1)少人数指導，TT指導及び習熟度別指導によって個々の生徒に応じたきめ細かな指導をすることによって，各教科の基礎・基本を確実に定着させることができると考える。  
 (2)朝の自習時間に読書をすることで，読解力や創造力，集中力を高めることができ，また，5教科のセミナーによってドリル学習を行い，授業で学習した基本的事項の定着がはかれると考える。

研究の内容・方法  
 (少人数指導)  
 一人ひとりの興味・関心に応じて学習内容や形態を工夫し，生徒それぞれの個性を伸ばすきめ細かな指導を展開していく。  
 (TT指導)  
 つまずきやすい教科や危険をとまなう教科で実施し，生徒の質問に答えたり支援する中で個別指導に当たる。  
 (習熟度別指導)  
 1年生の数学科で実施する。「基礎コース」と「発展コース」の生徒の希望選択により編成し，「基礎コース」はTT(1名は那賀高校の教師)であたり，理解の遅い生徒を支援できるようにする。  
 (朝の自習時間の活用)  
 毎月1週間は読書週間として読書に親しむようにさせる。残りの日はセミナー学習を実施する。  
 (小テストの実施)  
 漢字テスト，計算テスト，英単語テストを2週間ごとに順番に行う。範囲を絞って予告しておき，基本的な内容について出題する。テストの事後指導では，確実に定着できるように再テストをしたり個人指導を行う。  
 (長期休業中の質問教室)  
 家庭学習の困難な生徒，学習が遅れがちな生徒，質問を希望している生徒を対象に学習の場を提供する。担任や教科担任等の複数の教師で対応する。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- ・少人数指導の中で，さらにペアワークやグループ学習をより積極的に取り入れることによって，今まで受け身だった生徒も，進んで友達に質問したり，あるいは教え合ったりする場面が増え，特に理解の遅い生徒の学習態度に前向きなところが見られるようになった。
- ・個別指導によりわかる喜びを味わったことで，さらに学習意欲が高まってきた。
- ・冬休みの課題テストでは，学年全体の平均点が上がった。
- ・定期テストでは，なかなか結果を出せない生徒も小テストでは満点近くとることができ，自分の努力に対して，達成感を持てるようになってきた。
- ・長期休業中の質問教室には多くの生徒が参加し，普段あまり質問しない生徒が，積極的に学習することができた。
- ・個々の生徒に応じた学習方法を研究しようとする教師が増えてきた。

- ・習熟度別のコースを生徒が選択することで編成しているため、差別感や劣等感  
は生じていない。
- ・個々の生徒の理解に応じた指導をすることや教材の工夫をすることで、生徒の  
多様な考え方を引き出したり応用力を身につけることができた。
- ・アンケート結果について（1年 数学 習熟度別学習：1月末実施）  
今までのクラス別から習熟度別学習に変わってどう思うか
  - ・楽しく学習できる（25%）
  - ・どちらともいえない（50%）
  - ・あまり楽しくない（25%）
 コースの学習は自分に合っていると思うか
  - ・自分に合っている（41%）
  - ・どちらともいえない（16%）
  - ・合っていない（43%）
 習熟度別学習によって自分の学力は向上したと思うか
  - ・向上した（30%）
  - ・どちらともいえない（38%）
  - ・向上していない（31%）
 《生徒の声》
  - ・その單元ごとに自分で選べるので、単元が変わるごとにコース変更するの  
はとてもいいと思う。
  - ・自分に合うコースで勉強できるのでいいと思った。
  - ・難しい問題にチャレンジできたり、基礎からできたり自分にあった学習方  
法でできるからいいと思う。
  - ・自分のレベルに合わせてどちらのクラスにするのか選べるのですごくいい  
と思います。このまま続けて習熟度別学習にしてほしいです。

## 2. 今後の課題

- ・全体的に学習意欲の面では、自ら学ぼうとする姿勢は見られるようになってき  
たが、基礎・基本が確実に定着できているかどうかのチェックや評価活動にさ  
らに力を入れる必要がある。
- ・理解できないところをよく質問するようになったが、自分で調べず教師への依  
存心が増してきた。
- ・習熟度別指導において両コースの進度を合わせながら進める必要があるため、  
進度がどうしても遅れがちになる。
- ・小テストに向けての事前指導を考えていなくてはならない。
- ・単なる読書への興味関心を高めるだけでなく、読解力を身につけ、他の学習活  
動に十分生かされ、基礎・基本の定着に結びつくように指導方法・指導内容を  
工夫する必要がある。

## 学力把握のための学校としての取組

- ・標準学力調査（年1回）5月実施
- ・課題テスト（長期休業中の学習状況を調べる）
- ・定期テスト（教師自身の指導の評価にする）
- ・小テスト（基礎・基本の確実な定着を図る）

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・研究会参加
 

平成15年6月19日（木）	大松小学校
数学教員1名参加	
平成15年10月24日（金）	新野中学校
英語教員1名 管理職1名参加	
平成15年11月14日（金）	平谷中学校
数学教員1名 管理職1名参加	
平成15年11月21日（金）	穴吹中学校
管理職1名参加	

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               3学級以下                       4～6学級  
                                  7～9学級                       10～12学級  
                                  13～15学級                    16学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       数学                       理科  
                                  外国語                       音楽                       美術                       技術・家庭  
                                  保健体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無